

# 令和8年度 第1回 狩野川水系流域委員会 議事要旨

日時：令和8年6月4日（木）10:00～11:00

場所：WEB会議

## 1. 委員会の成立

- ・委員総数8名の内、8名出席であることから、狩野川水系流域委員会規約第4条に則り、本委員会は成立した。

## 2. 議事

### (1) 狩野川直轄河川改修事業の事業評価について

「狩野川直轄河川改修事業の事業評価」について説明し、意見として次のような発言があった。

- ・ P.7 豪雨災害の頻発化に対して、農家の方々も大変心配されており、河川整備計画に沿った早急な事業の推進に期待する。
- ・ 今後、農業者への情報提供や連携を深め、水田貯留等、流域治水による浸水被害の軽減に引き続き努めていただきたい。  
→現在、P.9に示したような流域治水の取組みを進めており、水田貯留など流域の皆様との協力を得ることができるよう、引き続き情報発信を実施する。
- ・ P.20 伐採木や刈草処分のコスト縮減について、事業で発生する資源を有効活用してもらおうなど、コストに限らず地域住民にとって有益な取組を実施し、事業への理解促進に努めていただきたい。
- ・ 刈草からペレットを作成するなど有効活用するためのノウハウも論文で発表されているため、参考としていただければと思う。  
→河川の伐採木・刈草は、地域の方で利活用していただけるような取組を引き続き検討・実施していく。

- ・ P. 10 現況（雨量確率 1/10）の青丸印が、現在の標本のラインではなく、気候変動を考慮した標本のライン上に載っているのは正しいのか。  
→気候変動を考慮した標本は、H22 までの雨量に気候変動の 1.1 倍を反映したものである。現況（青丸印）の直轄区間内上流域における最小流下能力を当てはめると、気候変動を考慮した雨量確率 1/10 となることを示している。
  
- ・ P. 13 当面の段階的な整備として、狩野川放水路分流堰の改築（固定堰切り下げ）を予定しているが、想定よりも大きな洪水の発生により計画規模以上の流量が放水路へ流下してしまうのではないか。  
→想定よりも大きな洪水が発生し、固定堰切り下げにより狩野川放水路へ計画上の最大流量を超える流量が分流されないように、可動堰の操作によりコントロールすることを想定している。
  
- ・ P. 15 洪水調節機能の確保について、対策案が決まっていない現段階において、費用対効果分析では建設費用を想定していると思う。今後詳細を検討していく中で費用を精査すること。  
→今回の事業評価では、仮定のもと洪水調節機能の費用を計上しているが、今後詳細に検討の上で複数の洪水調節施設の案を提示し、十分に審議いただくことを予定している。
  
- ・ P. 16 貨幣換算が困難な水害指標の定量化において、工事実施に伴う振動、騒音及び CO<sub>2</sub> 排出の削減に向けた取組なども必要ではないか。  
→今後の設計等を行っていく中で、工事実施に伴う振動、騒音及び CO<sub>2</sub> 排出などが少なくなるように留意・検討していきたい。CO<sub>2</sub> 削減については、具体的な場所等が決まらなると定量的に算出できないため、施工計画段階等の環境上の効果を考慮していきたいと考えている。
  
- ・ P. 15 便益が前回と比べると大きくなっている理由はなにか。  
→便益が大きくなっている理由の一つとして、浸水範囲の宅地面積が増えていることがある。また、気候変動を考慮した外力を対象に検討しているため、整備前の浸水域が広がっていることも便益が大きくなっていることに影響している。

本委員会をもって、狩野川直轄河川改修事業の対応方針（原案）に対する異議はなく、了承された。本委員会の審議結果は、中部地方整備局事業評価監視委員会にて報告することを予定する。

以 上